

# 嚥下造影検査 評価シート

## 嚥下のX線透視検査

テープNo. 139-10

体位  造影剤  検査回数 1 回 年齢 61

検査順序  病名 頸部食道狭窄・原発性副甲状腺機能亢進症  
2013年10月 甲状腺全摘・副甲状腺摘出

I. 第I期 口腔期

	運動について				異常について			
a. 側面								
舌運動	3	2	1	0				
口腔内残留				0	1	2	3	
口腔内移動時間				0	1	2	3	
b. 正面								
舌運動の左右対称性				0	1	2	3	

口腔外流出 ..... 有  
分割嚥下 ..... 有  
咽頭流入 ..... 有  
舌運動 不随意 ..... 有

II. 第II期 咽頭期

	運動について				異常について			
a. 側面								
軟口蓋運動	3	2	1	0				
舌根運動	3	2	1	0				
舌骨運動	3	2	1	0				
喉頭運動	3	2	1	0				
喉頭開鎖	3	2	1	0				
喉頭蓋	3	2	1	0				
咽頭蠕動波	3	2	1	0				
上食道口開大	3	2	1	0				
喉頭蓋谷の残留				0	1	2	3	
梨状窩の残留				0	1	2	3	
誤嚥	喉頭上昇前 上昇中 静止時 混合				0	1	2	3
侵入	無	有	誤嚥侵入スケール					
咽頭移動時間				0	1	2	3	

嚥下反射の惹起性  
正 軽障、中障、高障 )  
誤嚥に対する反応  
咳反射 ( 正、軽障、中障、高障 )

食道入口部形状

b. 正面

梨状窩の形(嚥下後)	<input type="text"/>							
梨状窩残留				0	1	2	3	
梨状窩通過の左右差				0	1	2	3	
咽頭蠕動波	3	2	1	0				
食道入口部通過時形状	<input type="text"/>							

運動について  
3:正常  
2:中等度障害  
1:高度障害  
0:不動  
異常について  
3:極めて異常  
2:異常  
1:やや異常  
0:正常  
誤嚥量について  
3:食道により気管に多く入れる  
2:中程度に入る  
1:不連続に少量入る

III. 第III期 食道期  
運動・形態異常 通過良好、狭窄なし

コメント 口腔期:正常  
咽頭期:嚥下反射の惹起正常  
喉頭挙上は頸部瘢痕のためやや弱い。  
咽頭筋の収縮不良で、食道入口部の開大不良。  
Cricopharyngeal barが著明に観察される。  
喉頭蓋谷と梨状窩に残留多し。喉頭侵入あるも咳で出せる。  
manometry、頭部MRI、神経筋疾患の有無の精査を様子。  
最終的には輪状咽頭筋切断の適応

※ 誤嚥侵入スケール  
1. 気道に入らず  
侵入 2. 声帯の上方 感知し嚥出  
3. 声帯の上方 感知せず  
4. 声帯 感知し嚥出  
5. 声帯 感知せず  
誤嚥 6. 自発的に嚥出  
7. 嚥出しようとするが出せず  
8. 嚥出しようとなし

